

報道関係者各位

2026年2月19日
スマートニュース株式会社

スマートニュース メディア研究所、オンライン教材
「ディベ・チューブ(DebeTube)」を教員向けに無償提供開始
～ショート動画やコメント機能を擬似体験、
Classroom Adventureと共同開発～

世界中の良質な情報を必要な人に送り届けることをミッションとするスマートニュース株式会社（所在地：東京都渋谷区、代表取締役社長 CEO：浜本階生）の社内シンクタンクであるスマートニュース メディア研究所は、株式会社Classroom Adventure（代表CEO：今井善太郎）と共同で、メディアリテラシーについて、体験を通して学べる動画系SNSシミュレーション型教材「ディベ・チューブ(DebeTube)」を開発し、2026年2月19日（木）より公開しました。

ディベ・チューブ(DebeTube) <https://debetube.smri-edu.com/>

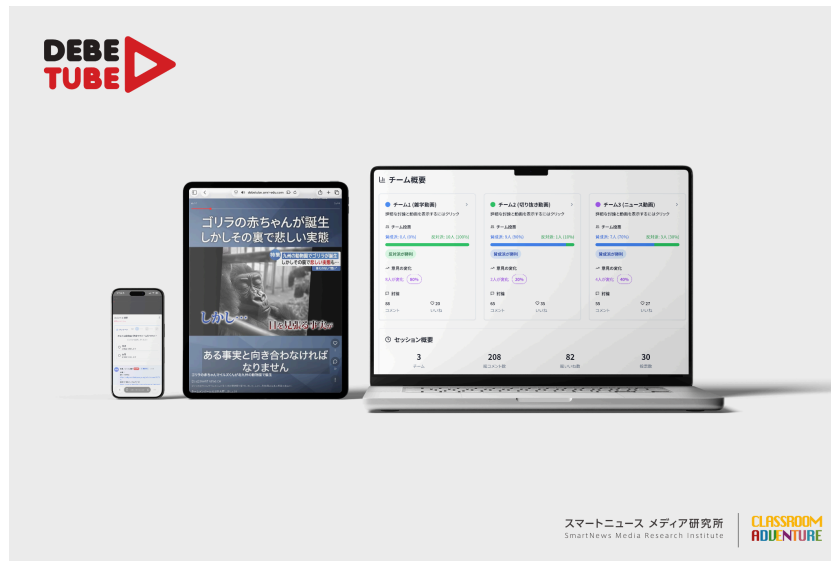


本教材は、SNS上の「アルゴリズムによる受け取る情報の偏り」やそれによる「意見の極性化」といった現象を、安全な環境下で擬似体験することができます。教材は、授業内で利用し、その結果に基づいて、生徒同士が「対話」、「議論」をすることを前提として設計されています。動画を使って、ディベート・議論する、という意味を込めて、「ディベ・チューブ(DebeTube)」と名付けました。

ディベ・チューブ(DebeTube)の主な特徴

- リアルなSNS擬似体験
 - ショート動画の視聴や「いいね」、コメント投稿など、実際のSNSに近いインターフェースを再現。生徒は没入感を持って学習に取り組めます。
- 意見形成プロセスの振り返り
 - 自分やクラスメートの意見がどのように変化したかをデータで可視化により確認。その後、クラス内で対話を行うことで、多様な視点への気づきを促します。
- 直感的に利用できる、シンプルな作り

- 先生方が簡単に利用できるように、アカウント登録→授業での利用までの手続きをできる限りシンプルに作成。授業で活用できるスライドも用意しています。



開発の背景

近年、若年層のソーシャルメディア利用が拡大する一方で、アルゴリズムによる情報の偏り(フィルターバブル)や、フェイクニュースの拡散が社会課題となっています。当研究所が実施している「スマートニュース・メディア価値観全国調査(SMPP調査)」においても、政治や社会情報の入手先としてSNSの比重が高まっていることが示されています。こうした状況においては、単なる知識の習得にとどまらず、自らのインターネット上の行動を客観的に振り返り、「情報を多角的、批判的に読み解く力(クリティカルシンキング)」や考え方が違う相手と「対話する力」を実践的に養うための教材が求められています。

本教材は、慶應義塾大学の現役学生たちが創業したEdTechスタートアップ、株式会社 Classroom Adventureと共同で開発を行いました。デジタルネイティブ世代ならではの視点で、偽情報をテーマにしたリテラシープログラム「レイのブログ」などを開発、世界各地で展開、EdTechスタートアップ賞「GESAwards」の特別アワードを受賞しています。

私たちスマートニュース メディア研究所は、「学校の授業の場において、良質なメディアリテラシー教育が広がってほしい」という願いを持ち様々な活動を行っています。ゲーミフィケーションの活用に秀でるClassroom Adventureとの協業によって、若い世代に親しみやすい新しいタイプの情報リテラシー教材が誕生しました。

ディベ・チューブ(DebeTube)利用者の声

トライアルを行った高校では、生徒たちから「情報の受け取り方の重要性を身をもって体験できた気がして、すごく良いと思った」「すごくリアルにコメントやいいね、リプライができ、その動画も実際に動画SNSで見たことのあるようなもので、面白かった。信じていたネットの情報を考え直すきっかけにもなった」などの声が寄せられました。また、教員の方からは、「複数の方向から情報を得るべきだということを理解しやすい」「生徒が主体的に楽しく取り組めると感じた」という感想をいただきました。

スマートニュース メディア研究所研究員 長澤江美のコメント



「私たちは、“情報”から多かれ少なかれ影響を受けて暮らしています。同じテーマであっても、接した情報によって、受け取り方、ひいては意見も変わってきます。特に、アルゴリズムが働くSNSではその『すれ違い』が大きくなります。日常的にSNSを通して情報に接している子どもたちにとって、自分自身が無意識のうちに情報環境からどのような影響を受けているかを知ることが非常に重要です。『ディベ・チューブ(DebeTube)』では、ゲームとその後の対話を通して、(SNSでは)『自分の手元に届かない情報があること』『自分が受け取った情報が、片側からだけのものではないか』を検討することの重要性』に気づける設計になっています。楽しみながらも、『情報との付き合い方』を見直すきっかけとしていただければ、と思います」

株式会社Classroom Adventure CEO 今井善太郎のコメント

「私たちClassroom Adventureは、学びを“知識”で終わらせず、“体験”として身体化できるゲーム方教材づくりを大切にしてきました。今回、スマートニュース メディア研究所と共同開発したディベ・チューブ(DebeTube)は、ショート動画の視聴やいいね・コメントといった日常的な行動を通じて、SNSのアルゴリズムによる情報の偏りや意見の極性化を、安全な環境で“実感”できる教材です。体験後の対話・議論までを一体で設計することで、異なる考えに出会ったときに、相手を否定するのではなく、根拠をたどり、前提を確かめ、対話続ける力を育むことを目指しました。そして何より、とても楽しく退屈しない教材に仕上がっています！授業現場での実践が広がり、子どもたちが情報とより良い関係を築くきっかけになることを願っています」

ディベチューブ(DebeTube)の概要

本教材は、50分程度～の授業時間で実施可能なシミュレーション型教材です。

- 対象：小学校高学年、中学生、高校生
- 推奨科目：総合的な学習の時間、情報科、社会科など
- 公開日：2026年2月19日(木)
- 利用料金：無料(教育目的に限る)
- 推奨環境：PC、タブレット、スマートフォンの主要ブラウザ
- URL: <https://smart-news-comment.vercel.app/>
※教員用アカウントの申請も上記サイトから可能です

スマートニュース メディア研究所について

スマートニュース メディア研究所(所長・山脇岳志)は、2018年に設立されました。ニュースやメディアが社会や人々の役にたつためにはどうあるべきかをテーマに、メディアリテラシー教育の研究・実践や、世論調査などを行っています。

<https://smartnews-smri.com/about/>

スマートニュース株式会社について

スマートニュース株式会社は2012年6月15日の設立以来、「世界中の良質な情報を必要な人に送り届ける」をミッションに掲げ、日本と米国でニュースアプリ「SmartNews(スマートニュース)」を開発、国内のニュースアプリとしては最大級のユーザー数を誇ります。2023年末からは初めてのサブスクリプションサービス「SmartNews+」を開始、子会社のスローニュースとともに、優れたジャーナリズムによって生まれた良質な報道や多様なコンテンツを一人でも多くの利用者に届けることに力を注いでいます。世界中の膨大な情報を日夜解析し続けるアルゴリズムと国内外の3,000媒体以上ものメディアパートナーとの強力な提携関係のもと、スマートデバイスに最適化された快適なインターフェースを通じて、良質な情報を一人でも多くの利用者に効果的に届けることで、これからも社会に貢献していく考えです。 <https://about.smartnews.com/ja/>

本件に関する報道関係者からのお問合せ先

スマートニュース株式会社 広報 pr_jp@smartnews.com